

平成14年12月1日

宮崎大学

No.16

# 工学部化学会会報

発行  
宮崎大学工学部  
化学会

〒889-2192 宮崎市学園  
木花台西1丁目1番地  
TEL(0985)58-7306(河野)  
FAX(0985)58-7306



共同研究を目的として新設された総合研究棟



## CONTENTS

- 本部から ..... 2
- 支部だより ..... 4
- 本部役員から ..... 7
- 草野先生を偲ぶ ..... 8
- 物質環境化学科だより ..... 10
- 年次別所感(H1卒、一度母校へ) ..... 15
- 職場を語る(ヤマト・インダストリー) ..... 15
- みやざきはいま(新観光名所をたずぬ!) ..... 16



## ごあいさつ

学大融宮

会 長 村 上 悟  
(30年卒)

暑かった夏もいつの間にか移ろい、空に雲に、また地上の景色も色づきはじめ、秋涼爽快の候となりました。

同窓会々員の皆様には、お元気でご活躍のことと存じます。

本年も恒例の第16号化学会会報を発行することができましたことは誠に喜ばしい限りです。

私が会長就任以来はや1年が経過し、去る6月8日宮崎市の東天閣で14年度の化学会理事会が開催されました。

当日は急用の為、私は理事会に出席できず原田繁利副会長にお願いし、無事に議事を終了しました事を報告します。

さて、最近の経済情勢は低迷をつづける中、景気後退傾向を何とか打開していこうと世情では、構造改革一色ですが、この改革は避けて通れない課題でしょう。さらには北朝鮮による拉致事件に至っては言語道断、呆れ果てるばかりです。

一方、明るいニュースもあります。

9月29日に開催した釜山アジア競技大会では日本選手団の活躍は目を見張るものがあり、サッカー、柔道、水泳等、大いにエールを送

りたいものです。

ところで、悲しいお知らせがあります。

恩師草野一仁先生が去る2月24日に急逝されました。突然の悲報に私自身が呆然としました。お元気だったところのお姿ばかりが目に浮かび、訃報が信じられませんでした。

先生は昭和62年3月に退官され、故郷の島原に帰郷されておりました。平成9年11月には勲三等旭日中綬章を受賞されておられます。

尚、葬儀には私が化学会を代表して参列し、化学会からの花輪をお供えしました。

謹んでお悔やみ申し上げますとともに、心からご冥福をお祈りいたします。

さて、私共の化学会は支部活動が活動の中心であります。どうか若い会員をどんどん同化して積極的な活動をされます事を期待します。私も、これからは、できるだけ支部活動に参加するよう努力しますので情報を頂ければ幸甚に存じます。

会員各位の栄えある未来に向う、さらなる飛躍、発展を期待いたしますと共に、ご家族ともどものご健勝をお祈り申し上げ挨拶いたします。

## 本部から

## 理事会報告

理事長 河野 恵 宣  
(38年卒)

年の瀬も迫り、本年も恒例の宮崎大学化学会の会報を発送する時期となりました。同窓生諸兄には益々お元気で、ご活躍のこととお慶び申し上げます。

本年を振り返りますと変革や改革と進み具合が非常に早く時間との戦いの毎日といった状況でありました。

新聞等でご承知の方も多いことと存じます

が、現在大学では、宮崎大学と宮崎医科大学との統合による宮崎新大学の設立、さらに、それに続いて予定される大学の独立法人化をはじめ諸々の改革等、巡るましい変動への対応といった問題があります。

今後、宮崎大学工学部物質環境化学科〔旧工業化学科、物質工学科（応用化学コース）〕がどのように変革して行くかといった道筋さえも判らない状態です。しかしながら、ここまで続いてきた宮崎大学化学会を今後も維持して行かなければならないことは自明であり、本部役員一同としては、今後も同窓生との連携を保ってその方向を作っていくかなければならないと思っています。

さて、本年度理事会は平成14年6月8日（会長、副会長のほか本部支部幹事および宮崎支部長など約25名出席）宮崎市の東天閣で行われました。塩盛理事から提案された平成14年度会誌内容承認、会計報告、予算案の承認を

行い、来年度役員〔会長、理事長以下の現役員の留任、3名の新理事 岩熊美奈子氏（平成11年卒）、吉山武伸氏（平成12年卒）、小野裕士氏（平成13年卒）〕を承認しました。

毎年問題になることではありますが、会員からの会費納入率が非常に低く、毎年の納入金は平均45万円程度（納入率25%）であります。この状況では化学会独自の名簿作成は不可能であり、毎年の会誌発行・送付にも問題が生じることになるといった状態です。このため、本年の幹事会において会費拠出法の改定が問題として提出されました。今後の検討事項ではありますが、会員諸兄の活発な意見をお寄せ下さい。

また、本部役員も中堅、若手同窓生諸氏への役員交代が始まり、今後の活性度が高まることが期待されます。各支部での状況においても、若手同窓生の役員参加によって化学会の益々活性化を期待いたします。

## 宮崎大学工学部化学会本部 平成13年度会計報告

平成13年4月1日～14年3月31日

収 入 の 部		支 出 の 部	
科 目	金 額	科 目	金 額
前年繰越	97,327	No.15会報	377,484
預金利息	7	会議費	24,148
本部会費	473,000	事務費	6,350
50周年事業分担金(宮崎支部)*	15,000	50周年事業分担金	44,920
		慶弔費	42,900
		翌年繰越	89,532
合 計	585,334	合 計	585,334

上記の通り報告致します。

平成14年6月7日

本部会計 三 島 幸 一 郎 （代理 塩盛弘一郎）

金銭出納帳、預金通帳、領収証等について会計監査を実施した結果、適切な処理が行われており異議のないことを認め監査報告致します。

平成14年6月10日

本部監査 江 藤 信 幸  
岩 切 重 人



## 東京支部だより

支部長 清水 満

(55年卒)

今年の関東地方は台風の当たり年となりました。その中でも台風21号は関東地方へ上陸した台風としては戦後最大級といわれ、各地で猛威を振るい多くの被害が出ました。被害に遭われた会員の皆様にはお見舞い申し上げます。

昨年の同時多発テロ以降落ち込んだ景気は今年になっても一向に回復が見られず、厳しい1年となりました。製造業は中国への生産シフトを加速し、国内産業の空洞化が進み、不良債権処理による大型倒産など雇用問題も深刻になってきています。新卒者の就職活動も相変わらず厳しい状況が続いており、新内閣には一刻も早く大胆な景気回復対策を実施し、景気を回復軌道に乗せて頂きたいものです。

さて、草野先生が2月24日ご逝去されましたことは会員の皆様にはすでにご存じのことと思います。2月初旬に東京化学会同窓会のご案内をさせて頂き、出席のご返事をいただいておりますので、突然の訃報にただ呆然とするばかりでした。草野先生には東京化学会（旧化学会東京支部）発足にあたり大変ご尽力を賜り、東京化学会発足後も毎年欠かさず同窓会にご出席頂いておりますだけに、お姿を拝見出来なくなることは、残念でなりません。紙面をお借りして、心よりお悔やみ申し上げます。

東京化学会は4月13日に同窓会を開催し、志摩先生、今田先生にご出席頂き、総勢42名の参加となりました。ここ数年、徐々に若い会員の方の参加も増えてきており、先輩方との交流も深まりつつあります。今後さらに出席者が増えて活気ある同窓会となるよう、魅力ある会にしていきたいと思っております。今年の同窓会では役

員の任命、ホームページ委員の任命、H14年度活動計画の報告等を行い、ご承認頂きましたのでご報告いたします。

### 1. 役員任命（敬称略）

副支部長:S22年卒 二瓶 章、S28年卒 瀬戸山 孝、

監 事:S31年卒 平松 明生、S31年卒 平山 哲

会計、事務局:S58年卒 田原 修二

理 事:H6年卒 芝原 敦

### 2. ホームページ委員（敬称略）

原田 征彦、小浜 信行、田原 修二、坪内 幹彦、芝原 敦

ホームページは今年度中に開設できるよう取り組んでいきますので、ご期待下さい。

掲載内容について会員の皆様からのご意見も参考にさせていただきますので、上記HP委員へご提案をお願い致します。



## 関西支部だより

地球温暖化のせいか、暑くて長い夏もようやく終わり、金木犀の甘い香りに馥郁とした気分浸っていたとき、ノーベル賞の朗報が飛び込んできました。それも、物理学賞と化学賞のダブル受賞と言う快挙です。

失われた10年と言われる経済不況（政治不況も）に、元気を失くしていたわが国も、これで少しは元気回復へ向かうのではないのでしょうか。特に我われ企業における化学系の研究者、技術者にとってもチャンスはあると思いをいたしました。それにしても島津製作所の例に漏れず、わが国の優れた研究者、技術者に対する処遇のお粗末なことは嘆かわしい限りです。

ところで関西支部の状況は、2年前に報告しましたが、その後総会も開かずめぼしい行事もせず今に至っております。実は昨年8月に支部幹事会を開き支部長以下の役員変更と行事の検討を行いました。諸般の

支部長 安井 啓 剛

(37年卒)

事情により、支部総会の承認を経ておらず、活動そのものが停滞していました。

このままではいけないとの思いから、今年8月末日に改めて支部幹事会を開き、今後の予定を討議した結果、12月1日に総会開催を決定しました。現在総会を成功させるべく各幹事が分担して名簿の見直し作成、案内状の発行、会場手配、来賓先生の折衝などに努力しています。この化学会会報が発行されるときには新幹事の正式承認も終わっていることでしょう。

ところで、今まで支部幹事として化学会活動にいきさかでも寄与して来た者として、またこれから支部長として支部運営をする者として、日頃疑問や問題と思っていることを以下に5～6点記しますが、今後本部との協議を通じ、解決したく思っています。また皆さんからの良いお知恵も頂戴したく思います。

### 1. 関西支部のエリアが広すぎる。

現在 四国、中国地区（愛媛県松山市、山口県下関市まで）を含んでおり、総会などの出席は事実上出来ない。またそれが参加率の低い原因ともなっている。近い将来、四国支部、中国支部へ独立すべきではないか。

### 2. 本部、他支部との交流・連携

大学の状況、学科の変革など詳しいことが分からない、他の支部と会員の転入、転出の情報連絡さえやっていない(やれない)ので、これをどうするか。

### 3. 支部活動、行事開催

ふさわしい支部活動とは、また、行事とは何なんだろうか。会則にある『会員相互の親睦をはかり、会員ならびに宮崎大学工学部物質環境化学科の発展を記するを目的とする』にのっとり、会員に魅力ある活動、行事を呼びかけたいが、会員総意の参加、協力なくしては大変難しい。

### 4. 会則の変更、改訂

### 5. 会員名簿に携帯電話とEメールを載せる

### 6. 支部名称の変更

## 名古屋支部だより

台風21号が久しぶりに、関東地方を直撃して、暴れまわりかなりの被害が出たと報道されましたが、関東地区の会員の皆様方はどうだったか、たいした影響を受けていなければ良いかと気がかかっています。台風と言えば我々の学生時代は、鹿児島・宮崎が「台風銀座」と言われていましたが、昨今は少々様変わりしている様です。

名古屋支部の活動は前回にも報告しましたが、小グループ活動を中心とした交流を活発にしようと考え、目下情報収集中です。その一環として愛知万博会場の一部となる瀬戸市「海上(カイショ)の森」に山本さん(名古屋支部の役員)を引っぱり出して出かけましたが、目的としたハイキングには現状ではNO、万博会場として整備された後ならばOKと考えています。現在集めている情報の中から現地確認後OKと判断した所へ、まず役員をさきい実施しだんだんと規模を大きくしたいものです。

支部長として来年の春には2期目の務めが終り、各役員の方々も2期お願いしてきましたので、今年中には改選のメンバーを決めたいと考えています。ただ皆様方のご賛同が得られれば支部長はもう1期やらせていただき、小グループの活動を少しでも前進させて行きたいものです。

同窓会としては「各支部の活動」と「各クラスの活動」がありますが、名古屋支部の活動報告とは違うとおしかりを受けそうですが、後者の活動について触れさせて下さい。65歳辺りを堺として年金生活にはいる人が多くなるのをきっかけとして各クラスの同窓会が行われるのではないのでしょうか。お世話になった先輩たちにお会いしたいと出席している28会(昭和28年入学のクラス)と自分達のクラス・30年入学のクラス会について簡単に述べて見ます。

#### 1) 28会：年1回の開催

## 福岡支部だより

日本経済、世界経済、世界情勢その他の明るい話題の無い今日頃ですが、少しでも良い方に向かうことを願っているところです。

### 支部長 清水 一生

(34年卒)

第2回が愛知県の犬山市で行われた時に、さそいを受け第3回：奈良、第4回：六甲、第5回：岡山周辺、今回は台北(台湾)、台北市での工場建設からたずさわり長年台北に駐在していた杉本さんの案内で楽しい1週間の旅でした。特に普通のパッケージツアーでは食べる事の出来ないおいしい料理に舌つづみを打つ事が出来ました。ただ残念だったのは毎回ご参加下さっていた草野先生が別世界へと旅立たれ、そのお顔に触る事ができなかった事と、いつもは10名以上の参加者があったのに今回は、3名+1名の28会だった事です。

次回の幹事は、坂口さん、秋吉さんで大分県の中津から少し山の方へ位置する山国町のホテル見物で「来年の6月開催」が予定されています。入学年度に関係なく多数の参加大歓迎との幹事からのメッセージをいただいています。

#### 2) 30年入学の会：2年に1回の開催

2000年に青江さんのお骨折りで宮崎のシーガイアで第1回を開催し、第2回は大分県の別府で開催しました。参加者は連絡のつかない1名を除き10名、但し幹事の渡さんがお世話になった先生方にご連絡しましたが皆様方ご都合が悪く、残念ながらお会いできませんでした。いろいろと話がはずんで楽しいひと時が過ぎせ、参加者全員満足して帰路につきました。

2004年は中部地区で行います。まだまだ先の話ですが、そのときの幹事に私が指名されました。幹事の独断と偏見で楽しい企画をと考えています。入学年度にこだわりません。多数の参加を期待しています。

上記のクラス別同窓会へ参加を希望される方は次回の幹事にご一報を。

### 支部長 宮原 陸人

(36年卒)

書き出しが堅苦しくなりましたが、当福岡支部に、昨年10月20日に草野先生、河野教授、塩盛助教授及び北九州支部の鈴木支部長と片山さん等にお出で頂き

## 支部だより

支部総会を開催しました。

当日は、28年卒の諸富さん達が長崎でのクラス会に草野先生の御出席を予定されていたようですが、草野先生への連絡が福岡支部の方が早かったため当支部に御出席頂いた次第です。ところが2月24日に草野先生が亡くなられたとの連絡を受け、昨年の福岡支部総会の折には、大変お元気だったのにと俄には信じ難い気持ちでした。草野先生には、これまで各支部の総会に度々御出席されたようですが、当福岡支部が最後の御出席だったかと思えます。誠に残念ではありますが、この支部だよりでは先生の当日の御様子等を主体に報告致します。

先生は、総会会場に大きな買い物袋を提げて来られたのですが、それがなんだったかという、宴会の途中で各テーブルに島原の銘菓を配られて、皆を喜ばせてあげようとの心遣いだったのであります。また、先生の御挨拶では、昨年は非常に忙しくて西独に誰(団体?)かと通訳を兼ねて行き、また次に、米国のお孫さんから来るように言われており、方々に行けるのはこれが最後だろうと話され、皆先生はお元気だから大丈夫と言ったものでした。

更には、歓談の中で何々君は昭和何年卒でどうだったとか、その記憶力の良さに先生の頭の中はどうなっているのだろうかと感心したものです。また私に対しては、私が学生時代に天然ウェーブで髪はフサフサしていたのを覚えておられたのでしょうか、宮原君は禿げたねーと声を掛けられたので、私の家系には禿げた

者はいないので禿げの遺伝子は無いはずですがねーと言うと苦笑いされていた優しい顔が思い出されます。

今後は、草野先生の知識の宝庫から醸し出される話題に接することができないのが非常に残念ですが、福岡支部総会で草野先生を中心にした出席者全員の写真を謹んで寄稿させていただきます。なお、前列左端が宮原です。支部総会への出席者をできるだけ多くしたいと思っており、他支部総会の要領等についても教えて頂きたく存じていますのでよろしくお願い致します。支部総会を頻繁に行なうことができればよいのですが、取敢えずは支部役員だけでも会合を持とうかと相談を始めたところであります。



## 宮崎支部だより

宮崎にお住まいの同窓の皆様、全国の同窓の皆様、いかがお過ごしでしょうか。

宮崎は、今、ようやく木犀の花が香るようになりました。時のたつのは早いもので、もうこの原稿の締め切りを気にしなければならぬ時期になってしまいました。宮崎の観光のシンボルとなっていたオーシャンドームがつい最近閉鎖され、秋の愛いに加えて寂しさを感じます。

今年2月に草野先生が亡くなられ、さびしい年になりました。私、体調を崩して自宅で寝込んでいるとき、竹井先生と河野先生から訃報を頂戴して、びっくりいたしました。草野先生には、昨年の12月1日の支部総会にご出席頂き、お話しさせていただいたのが最後となりました。先生が、「腰の具合があまりよくないから、支部総会も今年が最後になるかもしれない」とおっしゃったことを思い出します。私たち昭和44年入学の同期生36名にとって、とりわけ5年以上かかって卒業した27名にとっては、忘れられない先生でありました。憎らしいくらい？お元気で精力的な先生のお姿が、ついこの前のように思い出されます。先生のご冥福をお祈り申し上げます。

不勉強だった私たちもいつしか52歳を超え、そろそろ孫が誕生してもおかしくない年になってしまいました。光陰矢のごとしであります。

ところで、宮崎支部は、毎年総会を「化学会会報」発送の日で開催しております。本部の皆さんや在学生

支部長 田村 孝  
(49年卒)

の皆さんと「会報」発送を終えた後、開いております。参加数は、40名前後で地元の支部総会としては、ややさびしい気もしております。60、70歳を超えた先輩たちの出席が減少しているのがとても気になっています。まだまだ元気でいらっしゃる先輩たち大勢に出席していただき、叱咤激励を頂きたいものだと思います。

同窓会は、純粋に親睦を楽しめる会でもありますので、どの世代の方々も遠慮なく積極的に参加していただき、大いに旧交を温めて頂けたらと思います。

今年の支部総会で、たくさんの会員にお会いできることを楽しみにしております。最後に、同窓会の皆様のご健勝をお祈りいたします。



## 宮崎の近況



常任理事  
**横山 展俊**  
(42年卒)

化学会の同窓生の皆様お変わりございませんか。今年宮崎は7月に台風が数多く接近しましたが、8～9月はほとんど襲来がありませんでした。ヨーロッパの大洪水のように、この所の気象は年々おかしくなっている気がします。地球温暖化の影響でしょうか。

さて、宮崎の最近の話題を二つお知らせ致します。大手流通業イオングループの進出に、ついに行政のゴーサインが出ました。順調なら平成16年のオープン予定です。橋通商店街が猛烈に反対し、ここ2～3年進出阻止で鎬をけずってきましたが、力及ばずの結果となりました。最近の橋通は、日曜日でも人通りの少なく活気がほとんど感じられない残念な街になっています。昔を御存知の方の中には一抹の寂しさを感じる方もいらっしゃるのではないのでしょうか。車社会においていかれた気がします。

もう一つの話はシーガイアの件です。リゾート施設シーガイアは外資の手に渡り、オーシャンドームは年内に閉鎖の予定だそうです。但し、11月のイベント、ダンロップゴルフトーナメントは継続され、今年はタイガーウッズの参加が予定されているそうです。

さて、先日6月8日に化学会理事会が開催されました。平成13年11月から化学会ホームページが公開されていますが、ホームページの作成に詳しい会員の皆様、内容の充実したものになっていくよう御協力をお願いします。

No.16会報の発送は平成14年11月30日と決まりましたが、同日宮崎支部総会も合わせて行い、親睦と友好を図ることにしています。各支部の悩みと同様宮崎に於いても参加者が限られている傾向がございしますが、今後、化学会及び各支部を盛り上げて育てていくために、会員の皆様、積極的な参加をお願いする次第です。

最後に会員の皆様の御健勝をお祈り申し上げます。

## これからの高専教育



常任理事  
**山下 敏明**  
(60年卒)

志摩研究室でお世話になった後、昭和61年に都城高専に赴任して17年になります。

都城高専は国立の工業高等専門学校で、高千穂の峰を仰ぐ都城盆地のほぼ中心に位置し、私が所属する物質工学科の他に、機械工学科、電気工学科、建築学科の4学科より成っています。

今、学校は文化祭や体育祭の準備で慌ただしく、活気ある学生達の声がキンモクセイの香りとともに私の研究室に伝わってきます。

研究室には、卒業研究に取り組む5年生3名と、今年スタートした専攻科の学生1名が毎日研究に勤しんでいます。

こんな田舎の、のどかな学校ですが、底の見えない不景気、少子化、日本技術者教育認定基準(JABEE)の導入、また、国立大学と同じく独立行政法人化が迫ってくるなど、都城高専を取り巻く環境が劇的に変化しつつあります。

専攻科の第一期生が現在勉学・研究に励んでいます。専攻科は高専5年間の上に、さらに2年間積み上げるコースで、大学と同じ学士を取得することができます。中学を卒業してすぐに専門科目を勉強し始め、7年間の一貫教育を受けることができるわけです。専攻科が設置されたのは、学生の高学歴志向、地元産業界の要望、また高度化する技術に対応するためと、もう一つはJABEEに対応するためです。

JABEEとは、世界に通用する技術者を育てることを目的としており、学校が独自に設定したプログラム、例えば、教育理念に「世界に通用する開発型技術者の育成」を設定すれば、学生の英語の能力や創造力が試されることになり、プログラムに応じた審査が外部の審査官によってなされます。この審査はかなり厳しく、もし不合格となれば、落第校のレッテルが貼られてしまいます。当然、企業は合格した学校の学生を採用することになり、差別化が生まれます。ただし、JABEE認定の対象校は学士を送り出せる学校に限定されていることから、本校も専攻科の設置を余儀無くされたわけです。

近年、高専からは大学や専攻科への進学が、大学の学部からは大学院への進学が増加する傾向にあり、一方、企業の高卒の採用は激減していることから、採用する企業も採用される学生も一つ上にスライドした形態に変わりつつあります。

また、教育の現場には、2004年の法人化を間近にして、予算獲得、教育業績や研究業績の点数化など競争原理が導入され、今後は強い学校・有能な教員だけが生き残る、つまり教育機関の企業化が起こるようには見えません。しかしながら、どのような状況になろうとも工学系の高専教育機関が産業界への技術者の卵を送り出す使命が課せられていることは言うまでもありません。

田中耕一さんがノーベル賞を受賞されました。先の見えない日本において、日本の産業界の技術者や研究者に夢や希望を与えてくれたと思います。世界をリードする強力な新技術・新製品の開発なくして、今の日本の現状を脱却する手立てはないと思います。そのためにもこの激動の時期を乗り切り、技術者の育成にまい進したいと考えております。

化学会の皆様の御支援や御高配を頂ければ大変幸いです。

## 特集 草野先生を偲ぶ



多くの同窓生がご教授いただきました草野一仁先生が去る2月24日に急逝されました。

先生は、昭和22年に工学部の前身の宮崎県工業専門学校に助教授として赴任され、昭和36年に教授に昇任されました。40年以上にわたり教鞭を執られ、戦後の工学部の復興を支え工業化学科の発展にご尽力なされました。昭和62年3月にご退官になり、名誉教授とされました。平成9年秋には「勲三等旭日中綬章」を受章なされました。その後、故郷の島原にご自宅を移されておられました。

化学会の各支部総会や同窓会には可能な限り参加され、元気なお姿を見せておられました。写真は昨年12月の宮崎支部総会に参加された際のお元気な姿です。ご冥福をお祈り申し上げます。

## 草野先生の笑顔

秋吉 孝則

(32年卒、植木屋あきよし)

先ず、先生の笑顔をご覧いただきたい。この写真は、平成6年9月、長野県大町温泉で「草野先生を囲む会」を催したときの1コマである。

山田譲先生(工専1回)をはじめ、草野研究室出身の有志12名が参加。小生、定年退職半月前であったが、チャッカリ勤め先の保養所を利用。2泊3日で松本城、黒部ダム、大観峰、酒の博物館などをまわり、楽しいひとときを過ごした。

又、この旅の出発前夜には、浦和の拙宅にお泊りいただき、女房息女息子をまじえての話とお酒が大変気に入られたご様子で、歯のない口を大きく開けて笑う先生のお声が、今にも聞こえてくるような気がしてならない。

卒業40周年記念同期会を宮崎で開いた後、二八会(昭和28年入学組主体)として、その後毎年、名古屋、奈良、六甲、広島と続き、先生には毎年欠かさずご参

加いただきました。今年の台湾旅行へも、参加の意志表示第1号であったが、ご出席かなわず残念でならない。

東京支部結成のこと、春の東京支部総会後の有志による伊豆高原、箱根、湯西川、日光、袋田温泉等々、先生を囲んだ一泊旅行の思い出はつきない。

これからの同窓会のすべてに先生のお姿は見られないし、あの独特な笑い声も聞くことはできない。

寂しい限りである。

ご冥福をお祈りいたします。





# 草野先生の思い出

岡 島 木 良 博 学

(新潟県新潟市東区)

本年2月24日に、突然訃報の連絡がありました。草野先生が亡くなられたと言うものでした。昨年10月20日に福岡支部総会でお目にかかった時は、大変お元気で、参加者のためにお土産まで持参され、楽しく会食したのが最後でした。

本稿では、私の草野先生の思い出をお詫びを含めて書かせていただきます。

私が、初めて草野先生のご講義を頂いたのが、1年のときに習った「図学」でした。当時はまだ、パンカラ気風が残っていて、自由奔放な時代でした。確か3回目くらいの講義で、友人数名と出欠の確認の後、授業を抜け出し遊びに出たとき、草野先生は生徒数が減っているのに気づかれ、講義終了時に再度出欠を取られました。私たちのエスケープは、ばれればれ。次回の講義から我々エスケープ組のみ出欠を取られ大変参りました。その後講義は、サボらずに毎回出席しました。

また、ある時、草野先生が黒光りするスパナを一本教室に持参され、「このスパナの正面、側面図を書いてきなさい」と言われました。製図の技術の乏しい私は機械科の友人に、夕飯一回で代書してもらいました。ただ、草野先生が皆の前で「外園くんがこんなに上手に書いた」と公表されたとき、代書を知っている多くのクラスメイトから失笑が漏れたことにお気づきになられなかったことは、私にとって幸いでした。もう時効です。草野先生、「優」まで頂いて大変申し訳ありませんでした。

そして、私たちの世代では恐怖の「物理化学実験」が忘れられません。私の最初の実験は「Bomb Calorimeter による燃焼熱の測定」でした。この講義を受けられた方は必ず思い出される、あのナフタリンをニッケル線に植え込んで高圧酸素を注入した金属製のBombで燃焼させ、燃焼熱を測定するものです。この実験結果を当時助手の河野先生に提出するとなかなかOKを頂けず、みんなが2つも3つも実験が進んでいるのに自分はまだ1つ目で、めげそうになったこと、それ以降は夏休みも返上して一生懸命に実験を

## 外園 令明

(昭和55年、外園税理士事務所)

したこと、そして最後はクラスで3番目に実験が終了することができたことはいい思い出です。

私は、大学を卒業後、1年間ゴム関係の会社に勤めたあと、化学とは全く無縁の税理士になり、現在に至りますが、物化実験でたたき込まれた「ダブルチェック」は、今の仕事でも役立っています。

税理士になってから、近所にお住まいの串間先輩から化学会の福岡支部立ち上げのお話を頂き、参加させて頂きました。その第一回の発足総会に草野先生にご臨席いただいたときに先生は、遠路宮崎から、あの懐かしい「物理化学実験」の実験ノートをご持参され、参加者一人一人に名前を呼んでノートを返され、そのお気遣い大変感動しました。そして、2次会の席でドイツ語の歌を楽しそうに歌っておられた姿が忘れられません。

いま、私の手元には青春の思い出が詰まった2冊の物化実験のノートがあります。草野先生は、講義実験を通して、たくさんの思い出を生徒みんなに残されました。物化実験のために留年した生徒は毎年半数近く、恨まれもしたでしょうが、それもまたいい思い出だと思います。「ガハハハ…」という前歯の差歯のない顔での愉快そうな笑い声もう聞くことができません。合掌。

(年次所感として寄稿いただきましたが、記事の内容から特集に掲載させていただきました。)



学科長 木島 剛  
(機能物質化学講座教授)

副学長 園代

物質環境化学科は、本年3月、74名の学部卒業生、23名の修士修了生を送りだし、4月には、学部にて68名、修士課程にて20名の新生を迎えました。教職員では、本年4月、九州大学工学府物質創造工学専攻の中村成夫助手が、資源環境化学講座(馬場研究室)の助教授として着任しました。また、塩盛弘一郎助教授が本年11月から1年間の予定でスウェーデンに留学することになっています。電子顕微鏡の維持管理等を担当していただいた分析センターの干山千春事務補佐員が8月付で退職されました。本学名誉教授で、旧工業化学科の発展に尽くされました草野一仁元教授には、本年2月ご逝去になりました。草野先生のご功績に感謝の意を表しますとともに、慎んでご冥福をお祈り申し上げます。

卒業生の方々には、今、大学がどのように映っているでしょうか。情報、バイオに代表される産業技術の革命が世界同時的に急速に進展し、日本経済・社会が変容を迫られる中、大学もかつてない激動期に直面しています。

宮崎大学も平成15年10月に宮崎医科大学と統合することになり、さらに平成16年4月からは独立法人に移行することが予定されています。新大学は工学部・農学部・教育文科学部・医学部の4学部制となり、学部・学科は現行の形のままで存続しますが、教養教育の内容が見直されるほか、統合に伴う大学院組織の大幅な改編が予定されています。旧工業化学専攻も、平成8年度から物質工学専攻に変わり、さらに、平成11年度の学科再改組(物理系との分離)に伴い、平成15年度には再度の改組を行うことになっておりましたが、上述のような事情により、平成16年度からの新体制へ

の移行をメドに現在改組案の検討を進めております。

組織の改編と並行して、教育・研究面での第三者評価も求められています。本工学部でも、1昨年12月に学外者による外部評価を初めて実施し、さらに本年度は、大学評価・学位授与機構による研究評価の対象大学(全国で5大学)に選ばれ、7月に自己評価書を提出しました。その中で、本学科は、『機能材料系では、無機および高分子系新規ナノ材料、機能性マイクロカプセル、窒素酸化物分解触媒や光触媒など最先端材料の開発研究を活発に行ない、県の戦略研究事業や経済産業省の地域コンソーシアム事業、企業との共同研究も展開している。資源環境系では、宮崎の特産である杉由来の抗菌剤の開発や椎茸培地としての利用を目的とした企業との共同研究を進め、さらに自治体、宮崎医科大学および経済産業省と共に「薬物キャリアーの開発と実用化」に関する地域コンソーシアム事業に参画している。生物化学系では、微生物を利用した環境保全および糖の有効利用に関する基礎研究とともに、企業との研究プロジェクトなど応用研究も精力的に進めている』と自己評価しております。

今夏は、高速道路のあり方が熱く論議されました。国の経済・財政が停滞あるいは劣化する中で、地方の高速道路をどうするのか。地方には地方の言い分があり、一方、角をためて牛を殺すことも避けねばなりません。今後様々な分野で同じ議論がなされると思われる。私たちは、必要とされる大学、特色ある大学を積極的に目指さなければならないと考えています。母校へのご支援ご鞭撻をよろしくお願いいたします。

最後に、卒業生の皆様の益々のご健勝とご活躍を祈念申し上げます。

### 物質環境化学科職員 (平成14年11月現在)

	講座	教授	助教授	助手	技官・事務職員
物質環境化学科	機能物質化学	河野 恵 宣 木島 剛 保田 昌 秀	塩 盛 弘一郎 町 田 正 人 白 上 努		齋 藤 泰 男 貝 掛 勝 也 金 井 博 恵
	資源環境化学	松 井 隆 尚 馬 場 由 成	松 下 洋 一 中 村 成 夫	菅 本 和 寛 大 栄 薫	
	生物物質化学	林 幸 男 横 井 春 比 古	湯 井 敏 文	宮 武 宗 利 廣 瀬 遵	

## 資源環境化学講座

(旧基礎化学研究室)

当研究室は平成11年の学科改組にともない資源環境化学講座(大講座)となりましたが、学生たちはいまだに旧称の“基礎研”で呼んでおります。長年、私と貝掛勝也技官の2人のスタッフで研究室を運営してきましたが、平成12年4月には大柴薫助手を迎え、さらに平成14年4月には中村成夫助教も加わり、次第に研究室の体制も充実してまいりました。平成13年には研究室の引越しも行い、以前の研究室を知っている卒業生の方々には考えられないような恵まれた環境で日夜研究に励むことができるようになりました。当研究室に在籍する学生数は現在、博士1年(社会人入学)が1名、修士1年、2年がともに1名ずつ、学部4年生が7名となっております。今のところ広々とした部屋で実験できておりますが、次年度は配属数が大幅に増える予定で、ますます活気に満ち溢れることが期待されます。

研究内容に関しましては、化学工学的見地から機能性材料の開発、特に機能性微粒子、分離・吸着材料、抽出剤について取り組んでおります。具体的には、「生体高分子微粒子の調製とドラッグデリバリーシステムへの応用」、「化学修飾キトサンの吸着剤・抗菌剤への応用」、「ソルゲル法によるメソポーラス金属吸着剤の開発」、「天然吸着剤を用いた有害金属、有機物、無機イオンの除去」、「新規抽出剤の合成とその抽出挙動」などです。中でも機能性微粒子の研究では、経済産業省の地域コンソーシアム事業に加わり、宮崎県工業技術センターや宮崎医科大との共同研究のもとに実用化に向けた研究を展開しています。また、これらの研究にかかわる特許に関しましても、精力的に取得を行っております。

ところで、当研究室でも卒業生が増えるにしたい、思わぬところで卒業生と

教授 馬場 由成

研究上、仕事上のつながりができることがあります。国立大学の法人化を迎えて、大学関係者だけでなく企業の方々と情報交換が、これからの大学にとって非常に重要となってまいります。卒業生とのつながりを保つ方法のひとつとして、馬場研メールマガジンを始めました。卒業生の購読者も増えていると聞きます。まだ卒業生からの情報発信はありませんが、これが大学と卒業生を結ぶよい機会になればと思います。当研究室の卒業生でなくてもかまいませんし、ただ大学時代を懐かしむだけでもかまいませんので、購読をご希望の方は当研究室のホームページ(<http://w3.chem.miyazaki-u.ac.jp/babalab.html>)経由でご連絡下さい。

末尾ながら、当研究室卒業生をはじめ宮崎大学工学部化学会会員の皆様方のますますのご活躍とご多幸を心より祈念いたします。



馬場研究室

## 宮崎大学の博士課程

博士後期課程2年

魚田 将 史

工学部化学会会報という冊子を今回の原稿依頼ではじめてみた私としましては、この会報の趣旨がよくわかっておりません。よって、頓珍漢な事を書いているかもしれませんが、最後まで読んでいただけたらありがたいです。

私は現在、博士後期課程2年に在籍しており、無機研究室に所属して5年目になります。この5年間で、宮崎大学で感じた疑問点や研究室の実態を書いてみたいと思います。

まず、最初に暑いのにクーラーがない。おかげで今年もパソコンや測定機器が熱暴走しました。次にスペースがない。新しい実験装置を買っていただいても置く場所に事欠きます。そして安全に配慮した装置が足りない。特にドラフトや強制排気システムの数が足りません。ないない続きですが、あるものもひとつだけあります。まず、人手はあります。研究室の部屋の数は決まっていますが、研究室にはいつてくる学生の数は年々増えています。活気があって非常にいいのですが、学生のいる場所がありません。今まで卒業していかれた先輩方もそうだったのかもしれませんが、夜中に実験をしている学生が結構います。おかげで不夜城といわれる始末です。やる気のある生徒が多いおかげかどうかはわかりませんが、何とか装置を使いまわして実験している状態です。どこの研究室でもそうなのかもしれませんが、せめてスペースだけは欲しいです。あまり使われていない部屋もあるみたいですし。こういう風な環境で鍛えられて社会に出ると、企業の設備の充実具合に感動して仕事をがんばるぞーと思わせるためにこのような状態を保っているのかなーと思いつつ日々の実験に励んでいます。

つれづれと研究室の実態を書いてみましたが、この会報を読んでいただいている皆様に学生時代の悲哀を少しでも思い出していたけるといいなと思います。

末筆ながら、宮崎に遊びに来たときはどうぞ研究室に遊びに来てください。昔はどうだったか、現在の会社の環境はどうだという話を聞かせていただけると嬉しいです。厳しい状況の中、同窓生諸兄のますますのご発展をお祈りしています。

## 僕にとっての宮崎

物質環境化学科4年

三 浦 隆 広

今4年間を振り返ってみて、初めて宮崎に来たときのことを思い出しました。僕は後期試験を受け、福岡から高速バスに乗って宮崎にきました。試験を受けた帰りに木花駅まで歩こうとしたのですが、道を逆方向に間違えてしまい、医科大まで歩きました。どこま

で行っても駅なんか見えなくて、このまま山奥に迷い込んで死んでしまうかと思いました。大げさかもしれませんが、あの時は本気でそう思いました。「宮交シティーなんてただのダイエーじゃん!」「バスは時間どおり来ないじゃん!」「こんな田舎二度と来るもんか!」と思っていました。でも1年間浪人して志望大学にも落ちてしまい、後がなくなった僕は宮崎に来ることしか選択の余地がなく、渋々ここへ来てしまいました。

というわけで、僕は入学してしばらくは憂鬱な日々を過ごしていました。しかし入ってみると意外に周りに浪人生が多く、自分と同じ境遇を持つ人がいたので友達はずぐにでき、毎日が少しずつ楽しくなってきました。初めのころ、僕は宮崎大学を学力的に低い田舎の大学としか見ていませんでした。しかし入学してからこの4年間で、他大学に負けられない素晴らしい研究をしていることや、学祭やイベントなどの運営を見て、この大学のイメージが変わりました。本当にいい大学に来たなと思いました。何よりも宮崎大学に来てよかったと思えるのは、同じ学科やサークルの友達だけでなく、いろんなところでいろんな面の知り合いができて、かけがえのない仲間がたたくまでできたことです。ここでできた人間関係は、もし僕が他の大学に行っていればなかったわけで、一生大事にしていきたいと思えます。宮崎の風土もよく、「住めば都」と言いますが住んでみるととても住みやすいところでした。1年生の頃、僕は宮崎のことを馬鹿にする感じで地元福岡の友達に話していました。しかし今は心から宮崎のことを自慢できます。太平洋の海がきれい、山は緑があふれて気持ちがいい、地鶏やチキン南蛮はうまい、人があたたかい、米が2回収穫できる、大淀川は大きい、家賃は安い、巨人がキャンプに来る、など自慢してもきりがないぐらいです。

僕は就職して宮崎を離れますが、どこに行っても宮崎のことや仲間のことを忘れず、周りの人に自慢していきたいです。そしていつでも戻ってきたいと思っています。今はほんとに宮崎大学に来てよかったと思っています。



筆者下から2列目右から2番目

## 平成14年3月卒業生就職先および卒論題目

氏名	就職・進学先	論文題目	研究室
池田 隆之(修士)	東芝セラミックス	界面活性剤による無機結晶の形態制御とパターニング	材料2
宇都宮大悟(修士)	ダイニック	ベンゾシクロアルケン類のレドックス光増感アミノ化反応	分子1
鴨川 修(修士)	宇部興産	ジヘキシルスルフィド/PVC膜による水銀イオンの選択的能動輸送に関する研究	基礎
川野竜一郎(修士)	三島光産	キノメチド中間体の光化学的発生とそのシクロ付加反応	分子1
城戸 邦夫(修士)	東京応化工業	振動型反応器による連続微粒子調製装置およびその操作法に関する研究	材料1
倉盛憲一郎(修士)	日立ULSI	複合酸化物と酸性ガスとの気相固相反応に関する研究	材料2
黒木 大介(修士)	菱電セミコンダクタ	NOx吸着浄化触媒の材料設計と反応機構の解明	材料2
清水雄一郎(修士)	片山化学工業研究所	有機塩素化合物の脱塩素化機能を持つアンチモンポルフィリン光触媒の開発	分子1
下津 志明(修士)	チッソ	Penicillium属菌の生産するβ-キシロシダーゼの精製と配糖体合成	生物1
高 富士子(修士)	日本医学臨床研究所	リノール酸の酸化および抗酸化機構に関する速度論的研究	材料1
田中 克則(修士)	大日本インキ工業	可視光捕集伝達分子を軸配位修飾したアンチモンポルフィリン錯体の合成と光物性	分子1
谷川 隆祐(修士)	第一糖業	Aspergillus属菌の生産するキシラナーゼの酵素特性	生物1
谷口 仁(修士)	自営業	固体内包マイクロカプセルの調製とその機能性付与に関する研究	材料1
中山 理絵(修士)	ニプロ	キトサンマイクロキャリアの調製と薬物の徐放特性に関する研究	基礎
花木敏太郎(修士)	新日本科学	ジアルキルリン酸を含有した固体膜による銅イオンの高度分離に関する研究	基礎
日高 健一(修士)		スギ材の炭化反応および炭化生成物の分析	分子2
眞木 良介(修士)	FFCシステムズ	耐低温性水素発酵菌E-73株の低温条件下での水素生産特性	生物2
宮田 明(修士)	日製ソフトウエア	α-アミノ酸存在下でのリン酸カルシウムの結晶化に関する研究	材料2
村上 俊介(修士)	ソニーセミコンダクター	ランタノイドを含むタンタル酸塩の電子構造と光触媒特性	材料2
毛利 真司(修士)	トータルイノベーション	希土類酸化物ナノチューブの合成と特性	材料2
山元 孝志(修士)	旭有機材工業	ラジカル酸素酸化を用いるアリールアルカンのヒドロペルオキシ化反応およびその応用	分子2
吉井 淳(修士)	菱電セミコン	層状タンタル酸塩の構造変換と光触媒特性	分子2
吉山 武伸(修士)	黒木本店	Penicillium属菌由来β-フラクトフラニダーゼによるフラクトオリゴ糖の生産	生物1
菊池 鉄平	宮崎大学大学院	N-ヒドロキシフタルイミドとアゾ系ラジカル開始剤を組み合わせた酸素酸化反応	分子2
倉重 光	宮崎大学大学院	固体の水素吸蔵特性評価装置の製作	材料2
新川 勇一郎	トヨタビスタ宮崎	Penicillium属菌によるβ-キシロシダーゼの生産条件	生物1
陣之内 孝太郎	宮崎大学大学院	1,2-ジアルキルシクロプロパンの光増感アミノ化反応に対する増感剤および基質の酸化電位に基づく考察	分子1
砂地 義也	ACS	二酸化炭素雰囲気下でのスギ辺材の炭化反応と炭化生成物の分析	分子2
武田 浩之		スクアレンの酸化反応挙動	材料1
谷山 嘉紀	宮崎大学大学院	澱粉ポリエチレンシートの生分解特性	生物2
田畑 研志	トータルインフォメーション	アセチルユニットを軸配位させたアンチポルフィリン錯体の合成とポルフィリン分子ワイヤーへの試み	分子1
永江 義隆		地下水の硝酸性窒素の吸着と固体触媒による水素還元除去	基礎
永田 芳樹	日立測量サービス	キレート配位子を有するメソポーラスシリカの合成とPd(II)及びCd(II)の吸着機構の解明	基礎
元野 毅	宮崎大学大学院	非水溶媒中でのフェナントレンキノメチドの[4+2]光シクロ付加反応	分子1
伊藤 和紘	宮崎大学大学院	ペロブスカイト型酸化物AzrO3(A=Ba,Sr,Ca)の光触媒特性	材料2
池上 あゆみ	新日本科学	1級アミン及び2級アミンを有するキトサン樹脂の合成と酸の吸着特性	基礎
石井 和晃	小手川産業	7-アセチルアミノ-4-(p-シアフェニル)ポルフィリンおよび8-ヒドロキソ-7-アセチルアミノ-4-(p-シアフェニル)ポルフィリンアンチモン(V)臭化物錯体のX線結晶構造解析	分子1
石津 晶之	宮崎大学大学院	水溶液中のフェナントレンキノメチドの[4+2]光シクロ付加反応	分子1
稲田 美博		Bacillus属菌からのエンド-β-1,4-グルカナーゼによる配糖体の合成	生物1
岩永 健一	宮崎大学大学院	希土類酸化物ナノチューブへのEu3+イオンドーピングと発光特性	材料2
牛草 幸子	奈良先端科学技術大学院	リンポルフィリン錯体と層状粘土化合物との相互作用に関する研究	分子1
瓜生 興慶	千代田テクノル	好塩菌PT-5株の菌学的特性と生成ポリマーの凝集特性	生物2
恵利 明子		Penicillium属菌の生産する菌体内β-キシロシダーゼの熱失活に関する研究	生物1
大木 美貴子	宮崎大学大学院	スギ辺材木酢液およびスギ心材樹脂成分の抗菌性試験	分子2
大熊 文子	味の素ファルマ	Aureobasidium属菌の生産する菌体内β-グルコシダーゼのアルギン酸ゲルへの固定化	生物1
大峰 直樹	宮崎情報処理センター	Aureobasidium属菌由来β-キシロシダーゼ粗酵素によるアルキルキシロシドの合成	生物1
奥田 俊輔	川澄化学工業	スギ内皮の溶媒抽出分画および樹脂成分の分離	分子2
甲斐 安祐美	雲海酒造	多段精留法によるモデル焼酎モロミの蒸留挙動	材料1

氏名	就職・進学先	論文題目	研究室
河内 岳志	宮崎大学大学院	アンチモンポルフィリン光触媒の殺菌作用	生物2
河村 英明	川鉄情報システム	規則性らせん状多糖分子鎖の分子モデリングGUTソフトの開発	生物1
木崎 未佳	専門学校	焼酎モロミに含まれる微量成分の気液平衡とその微分蒸留挙動	材料1
北橋 豊和	奈良先端科学技術大学院	平衡ゲル法による水溶性グリコールキトサンと酸の結合特性	基礎
久保 泰基		スギ材構成高分子の分離とその炭化生成物の分析	分子2
久米村 政司	新日本科学	振動反応器におけるLiX860によるニッケルの抽出挙動研究	材料1
小泊 幸二	シスメックス	微生物による雑草からの水素生産に関する研究	生物2
坂元 大輔	九南	生分解性ポリマーを骨格とした農業内包マイクロカプセルの調製	材料1
在川 洋司	宮崎情報処理センター	エマルジョン系反応を利用した固体微粒子の調製に関する研究	材料1
新貝 美由紀	安川情報システムズ	軸非対称型アンチモンポルフィリン錯体の合成と軸配位子交換	分子1
末田 匡	豊和銀行	ハイドロタルサイトを触媒とする環境調和型酸素酸化反応の開発	分子2
鈴川 貴士	日本特殊塗料	D-グルコースからのエノン誘導体の合成	分子2
砂田 啓公	宮崎大学大学院	硫黄原子を配位原子とするカルボン酸型抽出剤によるAg(I)の抽出平衡	基礎
曾我 進	宮崎大学大学院	非酸化物系半導体の光触媒作用に関する研究	材料2
染矢 圭亮	日立システム&サービス	シリカ/ポリスチレンポジットの合成と特性	材料2
高石 淳子	東陶インフォーム	2重構造を有するメソポーラスシリカの調製と銅イオンの吸着選択性	基礎
高橋 記百	旭化成アミダス	スギ心材の溶媒抽出成分およびカラムクロマトグラフィーによる樹脂成分の分離	分子2
高橋 真理	山崎製パン	B血液型特異性糖鎖モデル3糖分子のモデリング研究	生物1
田中 孝輔	宮崎大学大学院	窒素原子で配位した軸配位子を有する新規アンチモンポルフィリン錯体の合成	分子1
檀 直樹	宮崎大学大学院	ギ酸塩を用いる水素生成・吸蔵反応系に関する研究	材料1
津波 伸一郎	宮崎大学大学院	水酸基を持つBis-pocketポルフィリンの合成とアミン類との相互作用	分子1
徳丸 洋一		ハイドロタルサイトの陰イオン交換による複合体の合成	材料1
友永 英機	ヤングファッション研究所	キトサン-ZnCl <sub>2</sub> 結晶の結晶構造解析	生物1
永田 直也	消防署(長崎市)	水溶液中のベンゾシクロアルケン類の光アミノ化反応	分子1
長谷 明	フルキャストウイズ	分子モデリング計算による $\alpha$ -キチン結晶構造モデルの提案	生物1
中村 満	日本海洋堀削	天然ポリフェノール類による貴金属の分離・回収	基礎
西村 和幸	双信電機	ベンジルアルコール類のフラビン光増感反応に対するミセル効果	分子1
野邊 千加	東京ゼネラル	白金-チタン酸塩複合体の合成と光触媒特性	材料2
浜 砂 朋美	デンサン	ドーブ型希土類メソ構造体の合成と発光特性	材料2
濱田 心	宮崎大学大学院	低温Nox浄化用担持Pt触媒の添加物効果に関する研究	分子1
東崎 無我	江藤産業	モノアールシクロプロパンのレドックス光増感アミノ化反応の位置選択性	分子2
日高 晋太郎	日本ケンタッキー	アピエタン関連化合物の合成およびその抗菌性評価	分子2
平島 義紀	名古屋大学大学院	ラッカーゼ様活性を示す細菌の分離と諸性質	材料1
福丸 淳一郎	サンベースフード	感温性ポリマーを骨格としたマイクロカプセルの調製	材料1
藤尾 彰二郎	マルトモ	増感剤と酸化電位差が大きい反応基質の光増感アミノ化反応	材料2
藤川 大輔	宮崎大学大学院	フェノール/フルフラール系ナノチューブの鋳型合成と特性	材料2
藤久保 恵子	九州住商コンピュータ	酸化銅-チタン酸塩複合体の水熱合成と光触媒特性	分子1
藤田 美香	宮崎県警	シリカゲルに担持したゲルマニウムポルフィリン錯体を触媒とするアルキルベンゼン誘導体の可視光酸化反応	分子1
細川 幸裕	豊橋技術科学大学	ヘキサフルオロリン酸リチウム存在下で無溶媒Friedel-Craftsアシル化反応	生物1
増田 喜和	サンヨー食品	N結合型糖鎖コアマンノース3糖分子の分子動力学計算	生物1
松本 智広	九州大学大学院	デヒドロアピエチン酸を出発物質とする天然ジテルペンの合成	分子2
南 悟史	宮崎大学大学院	D-グルコサミンを出発物質とするガラランチン酸の合成	分子2
森山 丈士	日立ビジネスソリューション	遺伝的アルゴリズムによる環状糖鎖の立体配座探索	生物1
夜久 かわり	宮崎大学大学院	LH-86株による2,4-ジクロロフェノールの分解	生物2
山根 賢也		アンチポルフィリン錯体の光触媒作用~E.coli K-12を含む汚染水の連続殺菌処理	分子1
山本 浩司	ポストンサイエンティフィック	Penicillium属菌の生産する菌体内 $\beta$ -フラクトフラノシダーゼの精製と性質	生物1
吉永 亨	ディップソール	高分散担持金粒子によるアセチレンの部分水素化に関する研究	材料2
吉村 巧己	宮崎大学大学院	複合界面活性剤系液晶相を鋳型としたAg <sub>2</sub> 微粒子の合成	材料2
渡辺 優一	宮崎大学大学院	脂質-ペルオキシド複合体を有する有機溶媒中での $\gamma$ -ヘドペルオキシド- $\beta$ -不飽和カルボニル化合物のエナンチオ選択的還元反応	分子2

## ぜひ一度母校へ

卒業生の皆様、お元気で活躍されていることと思います。私は、平成元年卒業のOBの1人です。私が卒業する頃は、今と違い求人企業が多数あり、企業に就職していく同級生がほとんどだったことを思い出します。そんな中、私は教員の道を選び今に至っております。大学4年生の時、あまりにも怠惰な私の生活ぶりに、研究室の河野教授から、「お前は、デモシカ先生になるつもりか」と指導されたことは今でも忘れることが出来ません。しかし、その言葉があったからこそ、今の私があり、今もその言葉を胸に高校の教員として仕事をしているつもりです。

そんな私が、昨年度3ヶ月間宮崎県工業技術センターで勉強をさせていただく機会を与えられました。あまり勉強の好きではない私ですが、良い機会だと思い勉強させていただきました。しかし、実際の研修は思っていた以上に内容が難しく、自分の不勉強を深く反省した次第です。私のこの研修の研究テーマは、「SPGの応用」として「SPGによって生成したエマルジョンを利用したDDS製

## 二見 宗英(平成元年卒)

剤の開発について」でした。その時、「大学時代に自分が研究していたのはエマルジョンだった」という事を思い出し、大学を訪れました。そこで、河野教授をはじめ多くの先生方に暖かく迎えていただき、私の卒論を探してきていただきました。先生方は、懐かしい昔話や最近の大学や学生の様子など、お忙しい中お話をして下さいました。

この時、「母校とは、こんなにも良いものなのか!」と感謝し、大変感激しました。それまで私が卒業後に宮崎大学を訪れたことは一度しかありませんでした。15年近く不義理をしていた卒業生をこんなにも暖かく迎えてくださいましたみなさまに深く感謝しております。

私以外の、しばらく母校へ足を向けていらっしゃらない卒業生の方々には、「ぜひ一度母校へ」と申し上げたいと思います。

最後に、宮崎大学がますます発展していくことを祈念して終わりたいと思います。

## 職場を語る

### ヤマト・インダストリー(株)

化学会会員の皆様、いかにお過ごしでしょうか?今年の夏は、猛暑続きで、南国で鍛えていたはずの私も、すっかり参ってしまいました。といいましても、私は、昭和49年に卒業いたしましたので、今年で52歳になり、学生時代の面影といえば、度のキツイメガネぐらいですが、

さて、卒業以来、宮崎の地にも、この化学会にもほとんど縁のなかった私が、突然会報に登場致しましたのも、同期で、現在、光洋精工に勤務している満丸君から、寄稿の誘いがあったからです。彼とは入学以来、男子寮で寝食を共にし、5年かかって無事に卒業し、同じ関西の地で生活基盤を築き、という具合で親交が今なお続いている次第です。

当時の「思い出話」なら、文章もなめらかに続けることができるのですが、そろそろ本題に移ります。

私は、卒業以来ずっと、「ヤマト・インダストリー(株)」に就職し、29歳の時に、同じ職場の女性と結婚し現在に至っております。本社は、東京都台東区にあり、その他に、名古屋支店(中村区)、大阪支店(中央区)、工場(埼玉県川越市)があります。関連会社として、国内に10社、海外に2社という布陣です。資本金は、7億7257万円(入社当時は、7000万円)、ここ最近の売上は、約200億円超(経常益2~3億円)で推移しています。

株式は、数年前から、店頭で公開しております。営業内容としましては、主に、プラスチック成形加工品、鉄・非鉄金属加工品の製造販売です。具体的には、家電商品・OA関連商品・自動車部品等の樹脂部品、物流機器類の鉄・非鉄製品を扱っております。私の卒業論文テーマが「酸化鉄の細孔構造」ということもあり(?)現在は、鉄・非鉄金属を扱う事業部に属し、生産と販売を兼務しております。小規模の会社組織の為、逆に生産から営業まで一貫した仕事に従事できることもあって、ここまで一つの

## 森永 正(49年卒)

会社でこれたのかも知れません。

ここ数年は、中華人民共和国(青島市)で生産拠点を築く為、悪戦苦闘をしておりましたが、やっと今年の3月頃から順調に商品が立ち上がるようになり、正直ホッとしております。全く何もない屋根があるだけの敷地に、製造ラインを作り上げるという仕事は、もしかすると、学生時代の、「物理化学実験」の講座(草野教授)に通じるものがあるかも知れません。当時の実験は、与えられたテーマに対し、自分自身で文献を探し、実験方法を草案し、おまけに、自力で実験器具を組み立てるといってもやっかいな講座でした。(おかげで1年間余分に勉強をさせていただきました。)その上、実験過程全般にわたり、草野教授の鋭い質問があり、答えられなかったら次の実験に進むことが出来なかったのですから大変でした。今思えば、頭で考え、考えたことを実行し、失敗し、又チャレンジする(そうしないと卒業できない)という当時の手法が、現在とても役立っている様です。改めまして、草野教授に感謝の意を表します。

さて、話がそれてしまいましたが、「職場の話」はこれにいたしまして、私の卒論時代の思い出話を少しします。

工業物理化学研究室での卒論テーマは前述の通りです。草野教授が全体を見ておられました。直接の指導は福留教授にして頂きました。当時のメンバーは、少し先輩の陣之内さんを中心に、同期で紅一点の小浜さん、そして1年後輩の、野上君(同い年)、末平君、山本君でした。特に紅一点の小浜さんとは、卒業後、奈良に就職されたこともあり、三重に就職していた野上君、満丸君と4人で、箕面の滝までピクニックに行き、とても楽しかった事を覚えております。

その小浜さんも、しばらくして亡くなられたとの便り

があり、郷里を離れて一人生活をしていた私にとって、言葉では言えない寂しさを感じたものでした。

1枚の写真を同封します。同じ研究室のメンバーと「はちのすキャンプ場」に行ったときの写真です。今となつては、どの辺りにあったのかも覚えておりませんが、草野教授も、小浜さんも、皆んな楽しそうに笑っています。本当に私にとっての貴重な青春のひとつコマです。

最後になりましたが、草野教授と、そして紅一点の小浜みさこさんのご冥福をお祈りして私の寄稿とさせていただきます。



## みやざきはいま

## 新観光名所をたずぬ!

- ・清武歴史資料館
- ・パラオと環野開拓館
- ・ひなもりオートキャンプ場

### 原田 繁利 (38年卒)

不景気で明るいニュースがあまりない。少し、明るいニュースといえば北朝鮮に拉致された5人が一時帰還したことかな、これとてパァーッとならないモヤモヤが残った。

宮崎の地では、シーガイアが倒産し、米国系の企業の傘下に、県北では日向市の第三セクターの温泉で、レジオネラ菌汚染による死者が多数でて、いまだに時々ニュースをにぎわしている。

こんなおり、地元紙に清武町が生んだ、幕末の儒学者安井息軒の旧家の近くに、歴史資料館が開館!の記事がのった。入場料無料も気に入った。

清武は、私のふるさとでもある。さっそく、マイカーで出かけてみた。真新しい資料館と対比するかのよう、古びた旧家が道を隔て残っており、歴史を感じさせられた。特に旧家は、かつて大学生時代に友人が間借りし、週末ともなれば焼酎を酌み交わした場所でもある。現在は国指定史跡、こんな貴重な住居とは知らず、あちこちをいためたのではないかと、そっと居間をのぞき見た。館内には、例のとおり不男の息軒と美人の奥さんのエピソードがスクリーンで放映されている。館内からみる眼下の空港、大淀地域、遠くにセラトン・グランデ・オーシャンリゾートを望む景観は絶景である。JR清武駅から徒歩約25分の地であり、結構、入場者もあるようだ。清武の歴史資料の展示も豊富であり、ミニ博物館といった風格である。

次に、清武町を後にして、霊峰霧島連峰のふもと、生駒高原にむかった。目標は、最近目にとまったパラオと環野開拓館である。南洋パラオ諸島から小林市の環野地区に入植した農業久保松雄さんが私財を投じて会館した開拓資料館だ。えびの高原へ行く途中に、真新しいヤシの葉ぶきのパラオの伝統的建築方式を取り入れたわらぶき屋根、壁のあちこちにパラオ独特の図柄、幸せを運ぶマナーバード赤いニワトリなどが装飾され、異国情緒を味わえる。内部には、パラオを紹介した写真、民芸品が展示されている。まだ、開館したばかりであるが、パラオグッズなど、



国指定史跡「安井息軒旧宅」

これからレパートリーも増えそうで、楽しみである。一度、探訪をすすめたい。

この時期、生駒高原はコスモスが満開である。実は、この探索は車の渋滞に悩まされ、苦行の連続であった。渋滞のコスモス街道をわき道にはいると、第三セクターのコスモス牧場がある。牧場内には、馬車が走り特産品の販売もしている。

眼下の小林市、遠く宮崎市の展望はすばらしく、不況知らずの超満員であった。ここを霧島連峰の北端ひなもり岳に向かって、20分もすると、突然、視界が開ける。ここが、いま若者の観光スポット、ひなもりオートキャンプ場だ。宮崎県ひなもり台県民ふれあいの森のど真ん中にあり、森林体育館、森林学習展示館、野鳥の森、テニスコート、野鳥の森など施設・設備が完備している。

駐車場の収容台数は、135台である。この日も、県内外のナンバーの車でにぎわっていた。

前回までは、神話のふるさと、椎葉村、南郷村、西郷村、高千穂町を探訪してきた。今回は、再び足元の中央部に筆を戻してみた。ふるさとの新しい観光スポットに焦点を当ててみた。

身近な、手づくりの観光スポットの成長を期待したい。



### 化学会ホームページ

<http://www.chem.miyazaki-u.ac.jp/~shiomori/dosokai/index.html>

化学会ホームページを開設いたしました。内容はまだまだ不十分ですが、会員の相互交流や情報発信に活用ください。同窓会開催の案内や各種情報提供、会員のホームページの相互リンク等を行ないますので連絡ください。ホームページの内容や活用方法のご意見をお寄せください。また、ホームページ作成にご協力いただける方はお手伝いお願いいたします。

### あとがき

- ・ここに会報No.16をお届けします。ご協力いただきました方々に心よりお礼申し上げます。
- ・草野先生のご冥福をお祈りいたします。
- ・医科大との統合および法人化により宮崎新大学はどの様になるのか。同窓生皆様のより一層のご支援をお願い致します。
- ・今年も残り少なくなりました。皆様よりお年をお迎えくださいますよう心よりお祈り申し上げます。

平成14年12月 編集委員一同